

「小河内」便り 第50号 平成29年11月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 安福孝昭）

連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3



安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

野山が紅葉、時折の風で木の葉が舞い散ります。木々も身軽になり冬に備えているようです。一方、小河内の最大行事、養山八幡神社の秋季大祭、吹き囃子行事も無事終わり、又門徒の報恩講も大方済み、人も冬支度が始まります。時間は淡々と過ぎ、今年も1月余りとなりました。今年最後の小河内便りをお送りします。

目次

安田女子大エコサークル稲刈り	10月1日	P 1
第5回体験塾（柿もぎと吊るし柿の作り方体験）	10月14日	P 2
第6回体験塾（餅つき体験）	11月11日	P 2
小河内情報		P 3
養山八幡神社秋季大祭、吹き囃子行事	11月5日	P 3
沢田の消滅集落見学	10月28日	P 3
空き家バンクについて		P 4
編集後記		P 4

安田女子大エコサークル稲刈り

10月1日（日）稲刈りとさつまいも掘りに教授と学生13人参加、農業を体験、田舎の秋を楽しんだ。鎌を手に稲刈りに挑戦、大きなさつまいもに歓喜、素晴らしい農業体験と喜んだ。



スタッフと一緒に集合写真



鎌で稲刈りする安田女子大生



でっかいさつまいもにびっくり

第5回体験塾 柿もぎと吊るし柿、あおし柿の作り方

10月14日、塾生15人が参加。さとやま未来博参加、空き家見学希望者5名も参加した。



祇園坊柿はあおし柿に



地元スタッフの指導で吊るし柿を作る



殺菌のため熱湯に20秒間つける



さとやま未来博で空き家見学



塾生に新米3kgを贈呈

第6回体験塾 餅つき体験

11月11日(土)昔ながらの唐臼で餅つきを体験、つき立てのお餅を試食した。



子供も餅つきにスタッフと一緒に挑戦



もろ蓋でもみ仕上げる



ヨモギを混ぜて作るヨモギ餅



楽しみの試食会、つきたては美味しい

小河内情報 養山八幡神社秋季大祭、吹き囃子行事

小河内の最大の行事、養山八幡神社の秋季大祭、吹き囃子行事が11月5日（11月第1日曜日）行なわれ、江戸時代から200余年続く古式豊かな伝統文化に触れた。この行事は平成9年、広島市重要無形文化財に指定されている。尚、前夜には奉納芝居（小河内昭和劇団）と神楽が奉納された、秋の夜長を楽しんだ。



稚児が太鼓をたたき、子供がいない問題も



祭りを盛り上げる神輿



鬼にかまれると頭の病気が治る、良くなるという



鼻高、鬼と共に祭りを盛り上げる

沢田消滅集落見学会

さとやま未来博イベントで10月28日、沢田消滅集落の見学会が安佐町郷土史会員の説明で行われ、10名が参加した。沢田集落は小河内でもいち早く開かれたと言われたが、昭和29年の可部線（延伸）を機に、農業を諦め、通勤者が増え、昭和40年代に消滅、無人化した。



消滅した屋敷跡で集合写真



沢田に行く舗装された市道



薬師堂の後は無残な姿に

空き家バンクについて

1、何故今、空き家バンクか=空き家を資源として有効活用

- ① 日本全体が人口減少社会に入っている。若年女性の減少と高齢者が多い小河内の人口減少は著しい、このまま推移すると、20年後には100人台になることが予測される。
- ② 今後、人口減少すれば、当然空き家が増える。
- ③ 田舎に住んでみたい、農業をしたい、というニーズは多い。
- ④ 小河内を活性化するには人口の自然増が期待できない以上、他地区の人を呼び込む(移住)しか方法がない。そのためには家がある。空き家と希望者のマッチングを効果的、効率的に図るため、空き家バンクを設立。今まで空き家に3世帯が移住、セカンドハウスとして利用

2、現在と20年後の予測

項目	現在(2017年9月)	20年後(2037年)の予測
世帯	234 (1世帯≒1.8人)	50世帯台
人口	427人	100人台(300人減) (今後年間の減少数15人として×20年)
年少率	1.6%(14歳以下7人)	14歳の子供は34歳の大人に
高齢率	約60%(5人に3人)	65歳は85歳に、70歳は90歳に
後期高齢者	約36%(3人に1人)	75歳は95歳に、80卒は100歳に
若年女性	18人(20歳~39歳女性)	? (子供を産む世代の女性が減れば人口は増えない)
過去10年間の平均減少数	平成19年 人口 615人 世帯 278	-188人 (現在に比べ) -44世帯 (")
	平成9年 人口 763人 世帯 287	-148人 (平成19年に比べ) -10世帯 (")
過去20年間の平均減少数	(平成9年)(29年) 763人-427人=336人÷20=16.8人(1年間の平均)	

※現在のまま推移するとして、日本創生会議資料を参考に作成

編集後記

過日、安佐公民館で仲野義文氏(鈴張出身、石見銀山資料館長)の「江戸時代のお百姓の暮らし」についての講演があった。その中で安佐町史から江戸中期の村の状況について興味深い説明をされた。それによると

小河内村の家数798軒、人口1,081人、村高1,223石

飯室村は家数519軒、人口2,156人、村高932石、

鈴張村は家数404軒、人口1,734人、村高1,018石、

久地村(705石)、毛木村(335石)、後山村(458石)、宮野村(73石)、筒瀬村(249石)とある。小河内の家数と人口に疑問が残るが、石高は今の安佐町内では一番多く、豊かなであったのだろうか。狭い土地を山の上まで切り拓き、生産高を上げたのだろうか、今の耕作放棄地や空き家をご先祖様が見られてどう思われるだろうか。(S)